

4. 刊行物、主催会議等

気象研究所の研究成果は、気象庁の業務に活用されるほか、研究所の刊行物、研究成果発表会などを通じて社会に還元している。

また、関連する学会や学会誌などで発表することにより、科学技術の発展に貢献している。

4. 1. 刊行物

気象研究所研究報告 (Papers in Meteorology and Geophysics)

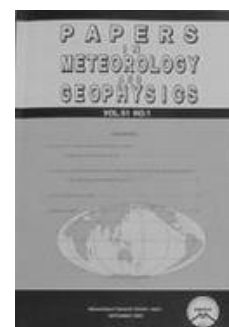
研究成果の学術的な公表を目的とした論文誌 (ISSN 0031-126X)。

気象研究所職員及びその共同研究者による原著論文、短報及び総論 (レビュー) を掲載している。主な配布先は、国の内外の研究機関・大学、気象官署などで、国立国会図書館でも閲覧することができる。

平成 17 年度からは、独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム” J-STAGE” に登録し、オンライン発行とした。

J-STAGE URL: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mripapers>

平成 30 年度は次の論文を掲載した。



第 67 巻

- ・ 伊藤耕介, 沢田雅洋, 山口宗彦: 高解像度大気モデル及び大気海洋結合モデルを用いた北西太平洋全域台風予測実験
- ・ 木村一洋: 体積ひずみ計データの降水補正に用いる降水量データについて
- ・ 堤 之智: Characterization of ozone in the middle troposphere over Japan from 6-year observation at the summit of Mount Fuji (3776m)
- ・ 松枝 秀和, 坪井一寛, 高辻慎也, 川崎照夫, 中村雅道, 齊藤和幸, 滝沢厚詩, 出原幸志郎, 細川周一: Evaluation of a new methane calibration system in JMA for WCC round robin experiment

気象研究所技術報告 (Technical Reports of the Meteorological Research Institute)

研究を行うなかで開発された実験方法や観測手法などの技術的内容や研究の結果として得られた資料などを著作物としてまとめることを目的とした刊行物 (ISSN 0386-4049)。主な配布先は、国立国会図書館、国内の研究機関・大学、気象官署などで、気象研究所ホームページ (<http://www.mri-jma.go.jp/>) でも閲覧することができる。

平成 30 年度は第 82 号を発刊した。



第 82 号「台風予報・解析技術高度化プロジェクトチームによる 5 日先

台風強度予報ガイドランスの開発」

(山口宗彦, 嶋田宇大, 沢田雅洋, 入口武史, 大和田浩美)

4. 2. 発表会・主催会議等

・気象研究所研究成果発表会

気象研究所の研究成果を広く一般に紹介し、社会的評価を高めることを目的とした発表会で毎年1回開催している。平成30年度は、平成30年11月10日（土）に一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）で開催し、以下の研究成果について発表した。

【報告題目】

- ・気象業務を支える研究の最前線
報告者：隈 健一（気象研究所長）
- ・集中豪雨研究の現状と課題
 - ① 平成30年台風21号による強風・高潮（速報）
報告者：高野洋雄（海洋・地球化学研究部 室長）
報告者：嶋田宇大（台風研究部 主任研究官）
 - ② 平成30年7月豪雨の局地的な特徴
報告者：清野直子（予報研究部 室長）
 - ③ 地球温暖化で変わりつつある日本の豪雨
報告者：川瀬宏明（環境・応用気象研究部 主任研究官）
- ・次世代の火山監視-気象レーダーで観た桜島・新燃岳噴火
報告者：佐藤英一（火山研究部 研究官）
- ・日本を取り巻く海の詳細な把握に向けて-海の「天気予報」の最前線-
報告者：碓氷典久（海洋・地球化学研究部 主任研究官）

・第16回環境研究シンポジウム

「スマート社会と環境～豊かな暮らしと環境への配慮の両立を目指して」

「環境研究シンポジウム」は、気象研究所を含む13の環境研究に携わる国立試験研究機関、国立大学法人及び国立研究開発法人が参加する「環境研究機関連絡会」が主催する公開シンポジウムで、毎年、決まったテーマの下で、参加する研究機関が成果の発表を行っている。平成30年度は、平成30年11月13日（火）に一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）において開催され、気象研究所は以下の講演及びポスター発表を行った。

【講演】

講演名：スマート社会を支える台風予報の高度化

講演者：山口 宗彦（台風研究部 主任研究官）

【ポスター発表】

- ① 逆問題としての水文気象学：河川流量観測を使って天気予報の精度を改善する
- ② 地球温暖化に伴う猛烈な熱帯低気圧の出現頻度変化
- ③ スマート社会におけるエアロゾル輸送モデル利用の可能性
- ④ 二酸化炭素15 μ m吸収帯赤外線カメラによる温室効果ガス可視化デモンストレーション
- ⑤ 非球形粒子の光学モデリングによる衛星リモートセンシング技術の改良
- ⑥ プレート境界地震の監視予測について
- ⑦ 大規模噴火を想定した気象レーダー観測と降灰予測（第2報）
- ⑧ 水中グライダーを用いた高解像度海洋観測技術の開発